

○猪口尚子*, 渡辺孝男** (*宮城大,** 宮教大)

【目的】1993～99年に中国各地で都市、農村一般住民に対して行ってきた食事調査をもとに、主穀類の種類と摂取状況、食事時間別の主穀類の違いや食べ方を明らかにする。

【調査対象と方法】中国10地域（都市6ヶ所、農村4ヶ所）に住む20～62才までの女性（平均年齢40歳）499名を対象に、24時間陰膳方式による食事調査を行った。食品の重量、種類等から、中国の食品成分表を用いて栄養計算を行い、摂取している穀類の種類と摂取量を求めた。

【結果と考察】①中国の10地域を都市と農村に分け、穀類由来の重量、熱量を求めた結果、都市に比べ農村が多かった ($P<0.01$)。都市では食物総重量の34%を穀類から摂取していたが、農村では、食物総重量の55%、熱量で換算すると、熱量の72%を穀類から摂取しており、穀類に依存した食事が考えられる。②摂取源となっていた主穀類は、米、小麦、トウモロコシ、粟であった。地域により、摂取源となる穀類の種類や量は異なったが、都市・農村ともに、米と小麦からが多く、トウモロコシ、粟からの摂取は少なかった。③食事時間別の摂取穀類は、全地域で、朝食には米よりも小麦が多く摂取される傾向にあった。